

なかよし

てんどうちゅうぶしょうがっこう
天童中部小学校

がっきゅう
いちよう学報

R4.11.11

No. 21

「普段とは違う生活の中で得る力」

先日6年生が修学旅行に行ってきました。いちようの6年生7人が全員参加して、無事に帰ってくる事ができました。準備をしてくださった保護者の皆様ありがとうございました。この学びの旅では普段学校では経験できない「生きる力」が試されたとてもよい機会になりました。お金の使い方、みんなで協力する力、朝と夜一人で準備して起きたり寝たりすることなど、家の人の手助けなく過ごす2日間でした。そんな学びの中の子ども達の様子を紹介したいと思います。

まず6年生は全員、それぞれ交流学級の子ども達と一緒にグループを組んで活動しました。一つの班は5、6人でその中で決められた係の仕事をして、責任を持ってやる大切さを知ったと思います。子ども達は事前学習から楽しく班の人たちと一緒にどこに行くか、昼ご飯に何を食べるのかなどを決めていました。そんな中A君ははじめのうち事前の班活動になかなか参加することができませんでした。「おれ、修学旅行行きたくない。」とまで言っていました。こちらから「こんな楽しそうなことがあるんだよ。」と話してもA君の気持ちはなかなか前向きになれませんでした。そこで同じ班の人と相談して、その子たちが直接A君に声をかけることにしました。「A君！僕たちの班はここここに行ってお昼ごはんはここで食べるよ。」と班で決めたことを伝えに来てくれました。その他にも修学旅行に関する話をしにたくさん来てくれました。するとA君も「お土産はこんなの買いたいな。」など徐々に前向きに話すようになりました。そして当日には誰よりも楽しそうに修学旅行に参加するA君の姿がありました。教師がたくさん声をかけることより、同じ班の仲間からの声かけの方が心を動かすことが多いのだと改めて感じました。



他にも心配なことがある子どもたちは、夜寝ることや起きることできるか、お風呂にはみんなが入ることができるかなど、家との生活の違いにうまく対応することができるか不安になっていました。また声に出さないだけで他にも本人たちにしか分からない不安もあったと思います。しかし、当日になってみると心配していた寝る時やお風呂の時間には、周りの子ども達と同じように行動することができていました。子ども達の本来持っている「生きる力」が大いに見えました。今回の修学旅行で「うまくいったな。」「自分でこんなにできるじゃん。」「感じた人はこれからの自信になると思います。逆に「もっとこうすればよかったな。」「失敗しちゃったな。」「感じた人もいるかもしれません。それでも全員が修学旅行を経験したという事実があり、経験もあります。それを本人たちのこれからの「生きる力」の肥やしになるように、子ども達と考えていきたいと思っています。



